



「人生100歳時代の設計図」に係る ヒアリング調査（報告）について

神奈川県政策研究・大学連携センター

■ 目的

「人生100歳時代の設計図」を考える際の課題を洗い出し、整理すること。

■ 概要

期間：平成28年8月～平成29年1月

人数：有識者 9名

内容：「社会参加」をテーマに、課題や対応策、取組事例などを聞き取り

■ 当報告の流れ

有識者へのヒアリング調査をもとにとりまとめ

1 現 状

2 現状から生じる課題

3 対 策

4 目指すすがた

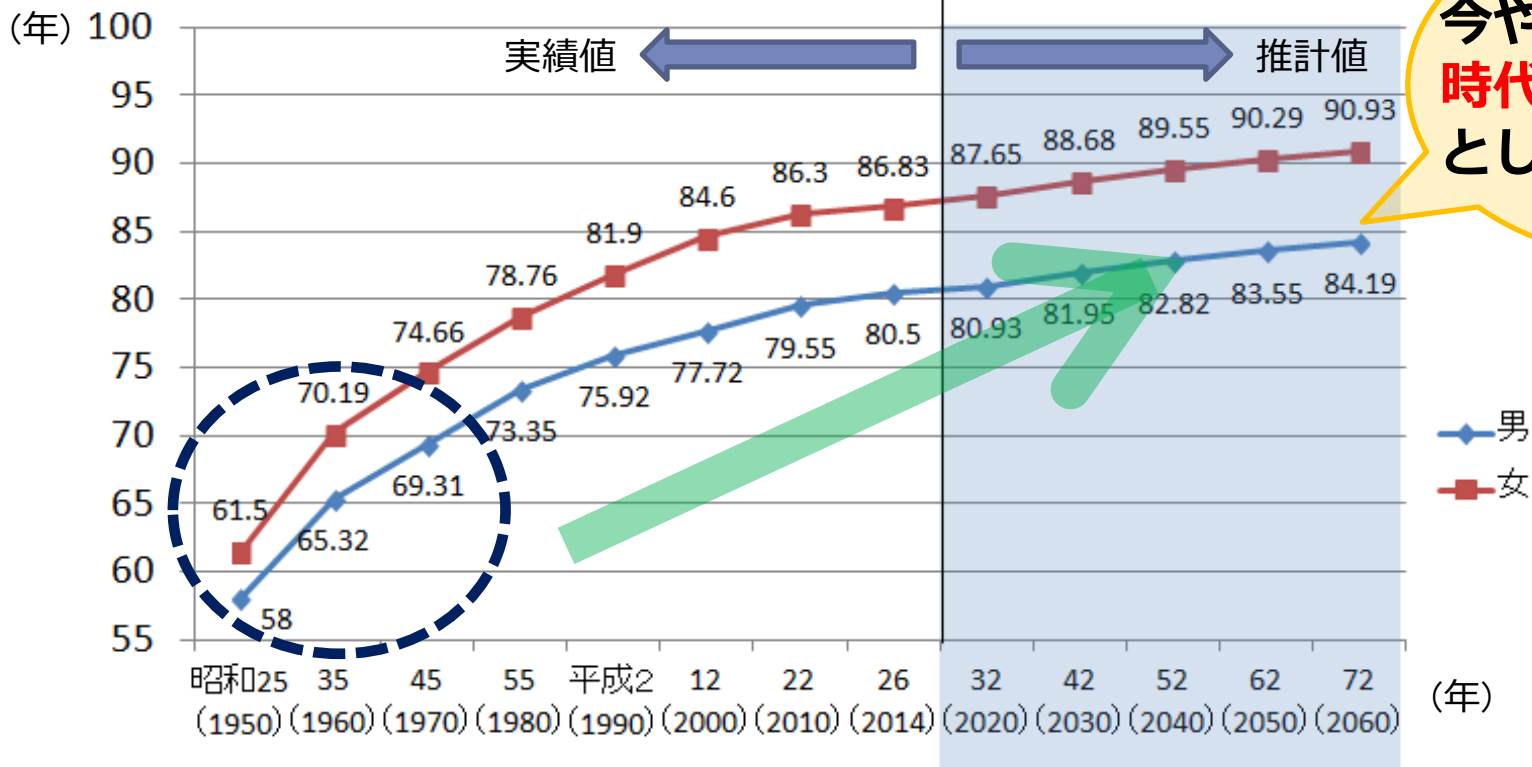
■一般的な「人生の設計図」のイメージ



これまでは多くの人々が定年退職となる60歳頃を境に、
高齢期は「**老後・余生**」を送るものとのイメージ

戦後、平均寿命が60歳代であった頃から、そのイメージは変わっていない

○ 平均寿命の推移と将来推計

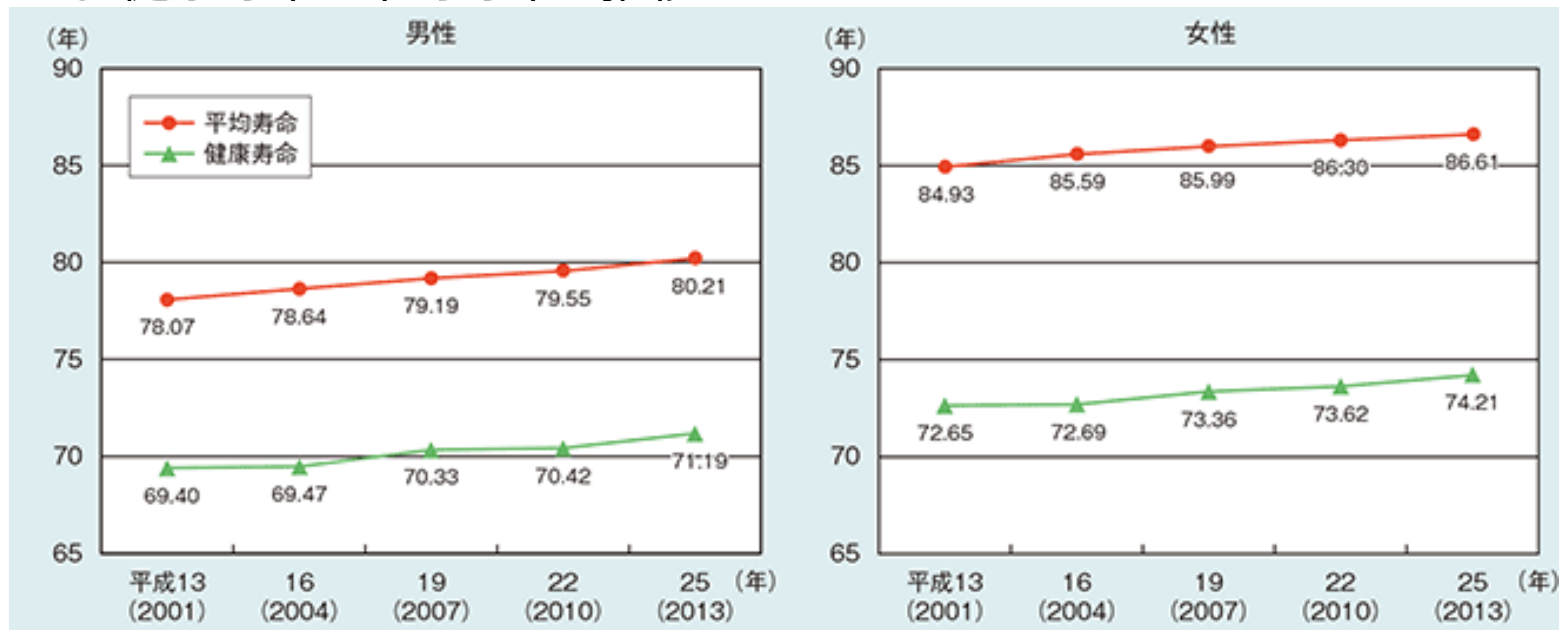


今や「人生100歳時代」を迎えようとしている！

健康寿命も年々伸びており、 高齢者はますます元気になっている

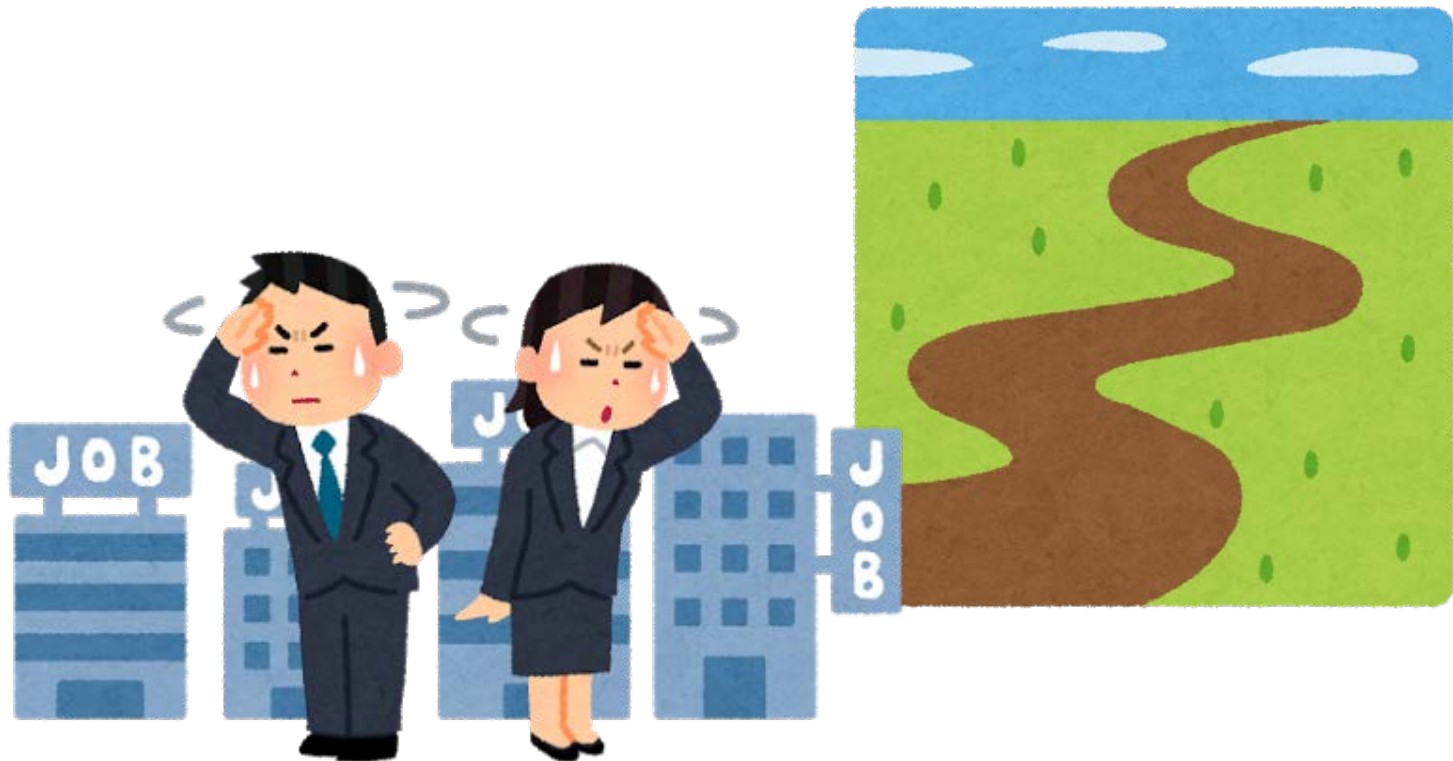


○ 健康寿命と平均寿命の推移



高齢社会白書（平成28年度版）

しかし、若者にとっては、「老後」は
就職→社会人の先の、**遠い未来の話**



現状



平均(健康)寿命が伸びた「人生100歳時代」
における、**いきいきとした高齢期の過ごし方**
が意識されにくい

現状から生じる課題

ヒアリング調査から得られた課題は、大きく3つの分野

① 個人が抱える課題

② 企業等に関する課題

③ 社会全体の課題

現状から生じる課題

① 個人が抱える課題

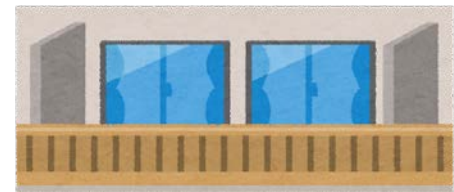
例えば…

ひとり暮らしで、隣人をよく知らない

年寄りが出て行ったら、みんなの迷惑にならないだろうか

親子3人家族で、共働きなので、日中は不在がち…

近所づきあいが億劫だ



地域とのつながりの希薄化は、
孤立、孤独死のリスクを高める



現状から生じる課題

① 個人が抱える課題

例えば定年退職後、生活が激変すると…

働きたいが、求人が希望と合わない

いざ仕事から離れたら、やることがないし、思いつかない

何もしていないので、自分が何かの役に立っている実感が持てない

家の他に出かける場所がない



充実感や主観的幸福感が得られ
にくく、いきいきとした暮らし
につながりにくい



■ ② 企業等に関する課題

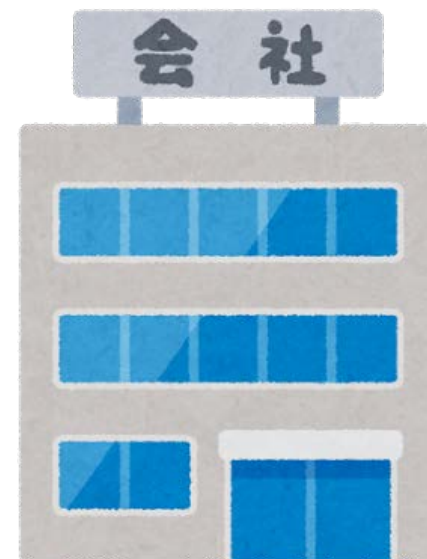
例えば勤めている会社で ...

退職予定者向けの研修で、老後の「マネープラン」は教わったけど、過ごし方がわからない

日中は仕事が忙しいから、自分の住んでいる地域の活動に参加するのは難しい



企業等の従業員への支援
体制が不足している



■ ② 企業等に関する課題

例えば高齢になっても働きたいと思っても…

高齢者はなかなか
雇ってもらえない

経験のある事務で働
きたいけど、求人は
軽作業など、職種が
限定的

再雇用してもらった
が、給料が大幅に下
がってしまった



企業等の高齢者の雇用対策
が充実していない



■ ③ 社会全体の課題

例えば「高齢者」と言われても…

高齢者と接する機会が少ないので、活躍しているイメージがわからない

高齢者がいたら、面倒をみななければいけないと思っている



「高齢者」と「現役世代」 との間で **区別**されている



■ ③ 社会全体の課題

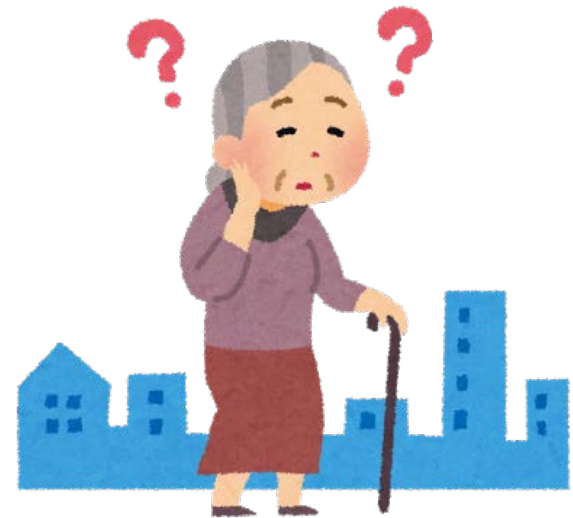
いろいろなところで支援活動をしているが…

あっちにもこっちにもあって、手続きが大変そう

ボランティアに参加してみたいけど、どこが何をしてるかわからない



支援を必要とする人と、既存の支援の取組みがうまく結びついていない



対策

① 個人が抱える課題への対策として

「ゆるやかなつながり」をすすめる

それぞれの事情に深く立ち入らず、関わる人数は多すぎないなど…

本人が負担に感じない程度に



地域との関係を保ち、協力しあうことで、**孤立を防ぐことができる**

考えるきっかけづくり、機会を提供する

やがてやってくる高齢期に備え、

充実感のある、**いきいきとした高齢期を送るための後押し**をする

(例) ライフプラン講習、
様々なライフプランの例示、
生涯学習など学びの機会を提供、
活躍の場の創出・提供



② 企業等に関する課題への対策として

企業等の従業員への支援体制の推進

在職中から退職後のことを考えたり、
地元の地域活動に参加するきっかけとなるように
企業等が従業員に対する取組みを積極的に行い、

従業員の**退職後のいきいき**
とした生活設計につなげる



(例) ライフプラン研修の実施、
社会貢献の一環として従業員を地域ボランティアに派遣、
地域活動をスキルのひとつとして評価する、等

高齢者雇用に対する意識改革

高齢者の雇用を進めるため、必要な取組みを行い、

高齢者が**希望どおり、いきいきと働ける環境をつくる**

(例) 高齢者個々人の持つスキルの積極的活用、
家族介護等のための勤務時間などの配慮、
年齢に捉われない評価、
高齢者の体力等に見合った就労環境を考慮、等



対策

③ 社会全体の課題への対策として

年齢に関係なく過ごすことが当たり前な社会の実現

一人ひとりが主体的に活動しようとする機運を高め、

誰もができることをできる分だけ実行し、
助け合うことで、**いきいきと過ごせる**
ことを目指す

- (例) 共助の浸透
- 世代間交流の機会創出
- 地域貢献に対する評価
- 有償ボランティアの活用



支援組織の強化・情報提供

自治体、企業、民間団体等、様々な既存の支援組織の横のつながりをつくり、
取組みについて 情報提供を工夫、浸透させる

それぞれの活動がより活用
されるようにして**相乗効果**
を目指す



地域活動への支援

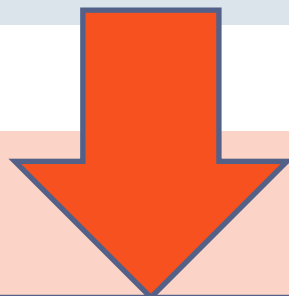
自治会など、主体的な住民の地域ぐるみの活動を支える体制をつくり、

継続をはかり、充実させていくことで、
地域を盛り上げていく

(例) 活動のノウハウ、資金、
活動場所の提供等



■ 目指すすがた



「社会参加」で生涯いきいきと過ごす！



■ ご協力いただいた皆さま

- 小林 隆 東海大学政治経済学部政治学科 教授
- 澤岡 詩野 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団研究部 主任研究員
- 杉澤 秀博 桜美林大学大学院老年学研究科 教授
- 袖井 孝子 お茶の水女子大学 名誉教授
- 立山 徳子 関東学院大学人間環境学部人間環境デザイン学科 教授
- 田原 孝明 独立行政法人労働政策研究・研修機構総合政策部門 統括研究員
- 前田 展弘 株式会社ニッセイ基礎研究所生活研究部 主任研究員
東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員
- 牧野 篤 東京大学大学院教育学研究科 教授
東京大学高齢社会総合研究機構 副機構長
- 山田 篤裕 慶應義塾大学経済学部 教授

(敬称略・五十音順)



ご清聴ありがとうございました！